

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301286		
法人名	社会福祉法人秋葉会		
事業所名	グループホーム桔梗野の家		
所在地	〒039-2241 青森県八戸市市川町字桔梗野15-7		
自己評価作成日	平成24年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域に根ざしたホームである。地域の集まりや催し物には積極的に職員、利用者共に参加している。スーパーに行ったり、散歩をしていると利用者が知人や近所の方から挨拶や声掛けをされたり、地域と支え、支えられる関係が深まってきている。運営推進会議には地域の各会長様や近所の方の参加があり、地域に根ざした事業所となりつつある。利用者様の希望で日常的に買い物やドライブを実施している。食事は季節感のある物をとりいれ毎月刺身の日もある。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>緑豊かな閑静な住宅街にありデイサービスと併設されたグループホームである。「地域と共に」を掲げ、地域の催し物(敬老会、草取り、運動会、お祭り等)へ積極的に参加し、さらにホームの行事(サクラランボ狩り、ぶどう狩り等)へ地域住民の参加も得られている。 法人の基本理念とグループホームの基本理念を掲げ、職員の作成したホームの目標、職員の目標、五つの接遇目標等で職員相互のレベルアップを図っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員で考え、掲げている。ミーティング時就業前等に全員で唱和し、共有もしている。	所長、職員全員の意見を踏まえ、ホーム独自の基本理念を作成し、掲示している。職員は新人研修、職員会議等で理念を共有し、ケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の婦人会、町内会の行事等に職員、利用者共に積極的に参加している。また利用者が近くの理美容にでかけたり、利用者がひとりで散歩することができるほど協力や深い交流ができています。	地区婦人会、町内会で応援隊を結成され、地域の催し物(敬老会、草取り、運動会、祭り等)では見守りやトイレ誘導等を積極的に協力していただいている。保育園や学校との交流も日常的に行われ、ボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同敷地内にあるデイサービスセンターを開放し毎月地域のお年寄りのサロンの開催に管理者が講話をしたりする。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の委員の会議への参加者も多く、お互いに話しやすい場となりつつある。又検討事項等については次回に経過報告をしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、市担当者、民生委員、オンブズマン、家族の参加がある。行事報告、地域の情報、事業計画等活発な意見交換があり、その記録は市へ提出されている。また、職員はその結果を確認している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当には電話や出向いて相談にのっていただいている。	市担当者より問い合わせや入居状況、研修案内等があり、また、報告書の文言や書き方について丁寧な指導を受けている。市担当者とは考え方や実態について共有が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて、身体拘束をしないケア禁止行為等の確認をしている。鍵についても、夜間常のみの施錠としている。	身体拘束のマニュアルが作成され、職員は研修会、勉強会等で理解を深め、身体拘束をしないという共通の認識の下、ケアに取り組んでいる。また、日中、玄関には施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待について学び、またミーティング等ではお互いに理解や遵守にむけ、注意し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修、外部研修にて学習の機会を設けている。現在利用されている利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明をしている。疑問や不安がある時には、その都度詳しく説明をし理解納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や御家族様参加の行事等で、気軽に話せるように会話の場をもうけている。第三者評価委員も月1回来所し利用者からの声を聞いていただいている。	ホーム内に意見箱が設置され、常日頃、利用者、家族が気軽に要望、意見等を話せる雰囲気作りがなされている。また、月1回第三者評価委員が来訪し、利用者の声を聴いていただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や調整会議で意見を聞く様になっている。また代表者は年2回面談にて職員の要望や意見を聞くよう心がけている。	職員の提案、意見等は、月1回の職員会議、または、調整会議等で報告、検討され運営に反映されている。また、年1回園長、所長と職員の面談を実施し、積極的に意見を聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場にきてくれ、職員の業務等を把握し、向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。また資格取得にむけた支援もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員一人1研修を目標に実施するようにしている。また法人全体の内部研修計画を基に年4回の研修と資格取得の支援でSOSの取り組みもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸市グループホーム協議会、全国組織にも加入し、研修会等に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用について相談があったときには、必ず御本人に会い、心身の状況や御本人の思いを受け止め、職員も本人に受け入れられるように関係作りに勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様のこれまでの御苦勞や、頑張ってきたことを理解し、不安や要望にじっくり耳を傾け安心安全のサービス提供にむけて、協力し合い、信頼していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族様はどうあってほしいと思っているか、又御本人はどうありたいと思っているかを見極め、それぞれの思いを組み入れたプランにつなげる努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、ホームでは今までの暮らしが継続でき共に生活できるよう、支え合うように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様への今までの暮らしの継続は御家族様の協力があってこそできるものであることを認識し、利用者様と御家族の絆を大切にし、共に支援するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様個々に違った関係継続の支援を心掛けている。たとえば近くのスーパーに出掛けることで、馴染みの知人や友人と会い会話したり、自宅への訪問、兄妹姉妹の施設訪問で馴染みの関係を継続するよう図っている。	地域交流会、誕生会、敬老会等には家族も積極的に参加されている。また、親族、友人、知人の面会や自宅訪問やスーパー等一人ひとりのつながりを継続できる支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎食、職員と一緒に食事をしながら会話をし、利用者様同士の関係が保てるように、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入居施設への面会等の承諾をいただき、継続的に関係維持をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の思いではなく一人一人の思いや暮らし方を把握し継続できるように努めている。意向の困難な場合は本人の行動や表情から判断するよう努めている。	職員は、五つの接遇目標、職員の目標を設定し、利用者一人ひとりに寄り添い、利用者の表情や態度を観察し、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合には、家族と連絡を密にして丁寧になされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅に訪問したり、ご本人、ご家族様、ケアマネージャー等から聞き取るようにしている。利用後もどんな生活をしていたのか面会時に聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ利用者一人ひとりのできることに注目し、出来ることは継続できるようにその場の提供に努めている。又、その日の身体状況や気分によっても違うことを職員は把握しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を定期的に見直し、ご本人ご家族様から、思いや意見を聞き反映させるようにしている。全職員で意見交換、カンファレンスを行なっている。	介護計画は、本人、家族と常に話し合い、職員の気づきを含め、全職員で検討し、作成されている。状況の変化に対応、見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎のファイルに日々の記録をし、その記録を通して、気づきや状態観察を職員全員で共有し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして、負担になる受診の回避や通院、移送のサービス支援を柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で安心して暮らせるように、警察や民生委員やタクシー会社、ボランティアの協力をおねがいでいる。又地域の行事には利用者、職員とも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族様が希望する、かかりつけ医となっている。受診や通院は希望に応じ対応している。	協力病院の内科の往診もあるが、利用契約時、本人、家族と話し合い、希望するかかりつけ医となっている。また、必要時には家族と話し合い、付添支援がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応をおこなってもらっている。また敷地内にある通所の看護師から助言をいただくこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は頻繁にお見舞いに行き御家族様、病院関係者らと情報交換し、早めに退院できる体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う看取り体制はまだ整備不十分だが重度化した時又終末期については、その都度御家族様に説明し、理解していただいている。ホームでできること、出来ない事は日々説明をしている。	利用契約時、家族と話し合いを重ね、情報の提供がなされ、方針の共有が図られている。全職員は、日常の健康管理、急変時の対応等の話し合いを重ね、意識の統一が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命法を全員が受講して、夜間時の緊急対応時のマニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の町内会長さんや近隣の方の協力があり支えられている。(水道管破損、地震時)非常通報装置には職員だけでなく地域住民も登録していただくなど協力体制が出来ている。	マニュアルが整備され、消防署の指導の下、自主訓練も含め年2回以上行われている。地域応援隊も結成され、積極的に参加されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修で尊厳について学び認知症という病気をかかえていても一人ひとりを大切に、プライバシーの保護についても徹底している。	「その人らしさ」を基本理念に掲げ、利用者一人ひとりの思いや意向を日々の関わりの中で、把握するように努めている。また、一人ひとりに合わせた言葉かけで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でもご本人様が決める場面をつくるようにしているが、時には職員の思いで対応していることがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物やドライブ、散歩等一人ひとりの状態や思いに配慮しながら日々支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度の割合で地域の理容・美容に出かけたり、本人の好みの洋服を選んだり、化粧を楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けは利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るようにしている。	献立は職員が作成し、本部の管理栄養士が確認している。下ごしらえや片付け等には利用者も参加されている。職員全員が利用者と食卓を囲み、楽しく食事ができる雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日摂取状況をチェックし職員全員が把握している。定期的に栄養士に献立のチェックをしていただき、アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の習慣により毎食後は難しいが、毎食後歯磨きの声掛けはしている。就寝前は職員が見守り支援し、義歯の洗浄や口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	当ホーム入所前におむつを使用していた利用者も、下着とパットでの対応、又トイレでの排泄を心掛けている。	職員は自尊心に配慮しながら、排泄パターン表を作成、活用している。一人ひとりのサインを把握、共有し、トイレ、ポータブルトイレ等への誘導等、個別の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりに合った食品(ヨーグルト、バナナ、リンゴ、プルーン等)を摂り、できるだけ下剤服用はしないよう努めている。また散歩や身体を動かしていただくことで、自然排便をうながしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者のその日の希望を確認し、入浴していただいている。(週3回入浴実施)	基本的には入浴は週3回設定されている。利用者の希望に柔軟に応じ、午後はいつでも入浴できる体制となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動をお願いし、生活のリズムを整えるようにしている。寝つけない時には温かい飲み物を準備したり、会話したりと配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は職員がいつでも確認できるよう、ファイルにしている。内容の変更時には全職員が把握できるようにしている。服薬は飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備、盛り付け、後片付け、読書、見回り、花札等利用者の経験や得意とすることを発揮する場面をつくっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらい、心身の活性につながるよう買い物、ドライブ、に出かけている。予め計画を立て、ご家族様に協力をお願いし、一緒にでかけてもいる。	利用者の状態や天候に応じ、心身の活性につながるよう、食材の購入、催し物(お花見、運動会等)への参加等に出かけている。また、併設のデイサービスの車を借用し、積極的に外出の支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の協力のもと、利用者様の希望や力に応じ、所持されている。外出のときには預かり金の中から、利用者様に手渡し、支払を自分でしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と話がしたいときには、職員が支援をし、本人が話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでは食事の準備の音や匂いがあり、障子を開けると季節感が感じられる。できるだけ共用場所には季節の花を飾っている。玄関の暦は利用者の作品で飾っている。	ホールは障子を活用し、ぬくもりが感じられ開放感がある。飾り付けは季節感が十分で家庭的雰囲気となっている。大小3つの時計、温度計は2個、大きめのカレンダー等、随所に工夫がされ、ゆっくりと過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の3箇所に椅子等を準備し、一人で過ごしたり、仲の良い利用者でくつろげるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、コタツ、写真等馴染みの物を用意したり、畳やラグマットを使用したりと居心地よく生活ができるように配慮している。	居室は本人、家族と相談し、本人の希望するタンス、こたつ、写真、ポータブルトイレ等が置かれている。また、入居時、自宅で使用されていた小物(茶碗、はし、コップ等)を持っていただき、使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること」や「わかること」は職員が共有し、それぞれ一人ひとりの力を活かすようにしている。部屋や場所が分からない方には目印や、一人で散歩に出掛ける方には、自由にしていただいている。(地域住民の協力があり)		